

会長就任のご挨拶

このたび、思いがけなくも五代目の会長をお引き受けすることになりました。微力ですが、精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本フォーラムは、平成6年（1994年）4月に、森林GISに関する産官学のフォーラムとして設立されましたので、今年度は9年目の活動に入ります。来年は10年目の節目の年になります。しいが、私私の務めは、この10年間の活動を総括するとともに、次の10年間の活動に向けてバトンタッチをしていくことであると認識しております。

昨年は、森林・林業基本法が成立しましたが、これに伴い、森林GISも新たな時代に移行して行くであろうと感じております。昨年度、私は、三重県宮川村で森林GISを応用した森林ゾーニングを試みましたが、その時の経験により、都道府県の森林GISは、今後は、2局化していく必要があると感じました。すなわち、森林行政用のGISと、森林ゾーニング用のGISです。いままで、都道府県に導入されてきた森林GISは前者であり、基本的には、林小班ポリゴンと森林簿がリンクしたデータベースでした。しかし、森林ゾーニングを進めていく上では、生物多様性に関する情報など森林簿に記載されていない各種の情報を解析し地図化していくことが必要になり、そのためのシステムと人材が求められております。こうしたニーズに対する森林GISは、林業試験場や林業技術センター等が中心になって取り組むべき課題であると思います。私は、前者の森林GISを観光バス型、後者の森林GISをマイカー型と呼んでおります。すなわち、定型業務に対応した森林GISを観光バスに例え、個々のニーズに自在に対応できる森林GISをマイカーに例えております。今後は、観光バス型とマイカー型の2つのタイプの森林GISが必要なると思います。

森林・林業基本法の成立により、市町村が主体となって森林計画に取り組んでいくことになりましたが、都道府県の役割としては、森林ゾーニングの基礎資料となる基盤的な森林GIS情報を整備していくことも必要であると思います。森林GISフォーラムが、そのための情報交換の場になれば幸いです。皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

平成14年7月

会長 田中和博（京都府立大学大学院）

森林GISフォーラム地域セミナー in 鹿児島のお知らせ

11月5日（火） 鹿児島市において開催

詳細は6ページをご覧ください。

任期を終えて

前会長 東京大学大学院
箕輪光博

西川会長、田中事務局長の後を受け、この2年間、佐野事務局長とともに、森林 GIS フォーラムを主宰し、地区運営委員の方々、賛助会員をはじめとする会員の皆様の協力によりなんとか任を全うすることが出来ました。ここに衷心から御礼を申し上げます。

さて、今期は、20世紀から21世紀の変わり目にあたり、森林・林業関係はもとより社会全般が大きく変化した2年間でした。構造改革を掲げた小泉内閣の登場、外務省改革、アメリカでの同時多発テロ、独立行政法人化の動き、森林・林業基本法の成立と市町村主体の森林・林業基本計画の樹立、速水林業・橈原町の森林認証取得などがその例です。中でも、平成12年11月に制定された「高度情報通信ネットワーク社会形成法」、それを受けて打ち出された IT 戦略は、わが国が本格的に情報化社会に乗り出したことを強く印象づけました。林野庁の今泉氏の報告によれば、農林水産分野では、生産・流通の効率化、都市と農村との交流及び情報格差の是正、農山漁村地域活性化などに IT 技術を活用しようとする動きが出てきているそうです。各省庁には IT 関連の部署が設置され、これまでそれぞれの分野で切り離された形で行われてきた GIS の導入・利用が連携を持つようになり、森林 GIS の役割も一層大きくなると思われまます。

他方、学会会議の第六部会では、農地や森林の多面的機能の定量化に取り組んでいます

が、そのためには、資源や環境の総合的把握及びモニタリングが不可欠であり、ここでも農林水産分野での共通の GIS 利用体制の確立が緊急の課題となっています。

最後に一言。私は、現在、農業高校の教育問題に取り組んでいます。これからの市町村主体の森林・林業基本計画を真に実効あるものにするためには、それを下から支える人材の養成が急務であり、地域の住民や産業を巻き込んだ**地域総合教育**の一環として、農林高校における GIS をベースとした地域資源管理教育の拡充に微力ながら貢献したいと考えています。

GIS定着社会の課題

日本大学生物資源科学部
(森林GISフォーラム顧問)
木平勇吉

GIS 実習は講義より面白い

「森林 GIS」という講義を日本大学で担当して2年目になる。1年目は講義だけで済めたが、2年目は大学院生のティーチング・アシスタントの力を借りて、GIS 実習を講義と組み合わせてやっている。

受講生 170 人は主に2年生であり、コンピュータ経験、地図・地理の知識、環境や森林への問題意識はさまざまである。ところが、大学院生が用意した操作マニュアルを手元に置き、それぞれのパソコンに向い合い、声とモニター画面の説明にそって進める GIS 実習を受ける学生の顔は真剣である。普段の講義に比べて数倍の熱が入った 90 分である。評判は非常に良い。講義で聞いた GIS を自分の手で動かして面白いとの感想がかえって

くる。実習のたびに簡単なアンケートをとり、受講生の感触をたしかめながら進めている。

「畳の上の水練」ともいえる1年目の私の講義から脱出できた。これも大勢の受講生が実習できる施設と指導できるティーチング・アシスタントのお陰である。日本大学の学生にとって GIS は日常的な勉強の道具になりつつある。多くの大学や組織においても、若干の時間のずれがあろうが状況は同様で、GIS 定着社会は近づいている。

データ収集は操作よりむづかしい

GIS のハードとソフトと操作技術が整った段階で、次に学生が会う課題は、それぞれの勉強テーマを解くのに必要なデータの収集・作成である。これは GIS の操作実習ほど楽ではない。必要な資料を自分で見つけなければならない。

航空写真、リモセン画像、森林図面、森林簿など広域の問題を扱うための基礎的な資料でさえ、自力で入手できるとは限らない。狭い範囲を扱う林分レベルの問題に欠かせない地形、土壌、植生、水環境などの基礎的な資料を見つけることは容易ではない。存在しないことも多い。

しかし、これら森林関連のデータが入手しにくいのは学生の勉強不足だとしては済まされない。森林データベースに関する情報制度が欠如した日本の社会的な弱点といえる。GIS が社会に定着し、日常的な道具になるにつれて森林資源情報、自然環境情報、地域社会情報などの整備が必要になってくる。しかし、現実には情報制度の整備はなかなか進まない。

学生にとってデータ収集も研究の一部分である。現地に踏み入り、自らが汗を流して調査することの必要性はなくならないが、既存の資料や過去の研究成果の非公開や散逸により無駄な作業を繰り返しては GIS の効果はあがらない。GIS の操作実習の次は、森林・

環境データベースを整えるのが教育・研究担当者の役割りである。

日本大学演習林データベースの整備プロジェクト

日本大学は 2600ha の演習林をもち、年間延 3000 人に利用されている。しかし、制度としてのデータの蓄積はきわめて少ない。多くの先輩の長年にわたる調査や研究にもかかわらず、制度としてのデータにはなっていない。制度とは、(1)誰でもが利用できる、(2)内容が容易にわかる、(3)整理されて自由に加工できる、状態である。

このような目的で演習林の森林を自然環境および過去の研究成果を含めて制度としてのデータベースを作るプロジェクトが今、始まった。2002 年から 2005 年の 4 年間に達成すべき目標の青写真について、同僚の増谷助教授と検討中である。データベースが出来て、学生が日常的に利用できるようになれば、私の「森林 GIS」の講義も相当に立派なものになると思う。

GIS 日常化の次の課題

GIS 操作が日常化し、そして、制度的にデータが相当に自由に使える状態になった時、私は次の夢を描いている。多くの人々が GIS を使って森林と環境を保全する理念を持ち、それを実現する計画を立てることである。創造性の豊かな研究であり、現実課題を解く強力な対応策の提示である。

これは GIS の勉強だけでは達せられない。生態系を知り、地域社会を分析し、人の心を推しはかり、未来を予見する洞察力と倫理観が求められる。「森林 GIS」の私の講義は、学生にとって GIS の勉強であるとともに森林の勉強への意欲を刺激する役割を果たしたいものである。GIS 定着社会における課題は、自由に、豊かに、森林保全に夢を描くフォレスターの出現である。

平成 14 年度 第 1 回運営委員会の報告

本年度の第 1 回運営委員会が、下記の通り開催されましたので、ご報告申し上げます。

(文責：事務局 松村直人)

記

森林GISフォーラム
平成 14 年度 第 1 回運営委員会

日時：6 月 25 日 (火曜日) 13 時 ~ 15 時

場所：東京大学農学部 1 号館 3 階 316 号室

森林経営学研究室

出席：田中和博会長、佐野真琴運営委員、

広嶋卓也運営委員

[賛助会員] (登録順)

キャディックス：横山猶吉

パスコ：望月貴一郎

国土地図：中尾 護

国土防災：松永佳之

[事務局] 梅沢光一、松村直人

次 第

1 開会の挨拶 - - - - - 田中会長

2 新運営委員の紹介

会長：田中 和博

副会長：加藤 正人

事務局：松村 直人、梅沢光一

運営委員：林野庁計画課	杉山	高
北海道地区	対馬	俊之
東北地区	西園	朋広
関東地区	佐野	真琴
	広嶋	卓也
中部地区	中村	研二
関西地区	田中	邦宏
中国四国地区	平田	泰雅
九州地区	近藤	洋史

3 [話題提供] 「GIS による森林機能評価と森林ゾーニング - 三重県宮川村での取

り組み - 」 - - - - - 田中会長

4 [報告] 平成 13 年度活動報告 - - - 松村

4.1 ニュースレターの発行

4.2 地域セミナー in 岐阜

4.3 東京シンポジウム 2002

5 [報告] 平成 13 年度会計報告 - - - 梅沢

5.1 会計報告 (次頁)

5.2 ニュースレター発行部数等の現状報告

6 [議題] 平成 14 年度活動計画 - - - 松村

6.1 地域セミナーについて

2002 年 九州を予定 (11 月)

2003 年 三重県を予定

6.2 小規模地域セミナーについて

2002 年 関西 (京都) を予定 (12 月)

6.3 東京シンポジウムについて

2003 年 2 月

6.4 ニュースレターの発行

No. 22 7 月中旬締切、8 月上旬発行

No. 23 9 月下旬締切、10 月発行

No. 24 12 月中旬締切、1 月発行

No. 25 3 月下旬締切、4 月発行

7 その他

8 閉会の挨拶 - - - - - 松村

<< 原稿募集中 >>

会員のみなさまからの原稿を募集しています。内容は「地域からの便り」など当フォーラムに関係することなら何でも結構です。薄謝を謹呈いたします。表題、所属、お名前、本文 (21 文字 × 30 行、60 行、90 行、120 行) をテキストファイルにして、電子メールか F D で事務局までお送りください。

会計報告(5.1)

収支状況	収入の部		支出の部	
	合計	¥887,041	合計	¥333,588
	会費	843,000	事業経費計	¥323,550
	事業収入	35,880	講師委託	40,000
	雑収入	8,161	事務等委託	0
	期末		アルバイト	91,440
	前期繰り越し	2,013,441	旅費	29,500
	当期残金	553,453	通信	25,610
	翌期繰り越し	¥2,566,894	会議	0
			会場借料	81,140
			事務消耗	55,860
			事務局経費計	¥10,038
			旅費	0
			通信	800
			会議	7,350
			事務消耗	0
			支払手数料	1,888
資産状況	¥2,566,894 : 内訳 上記繰越金			

備考：

- ・事業経費は研究会・シンポジウム開催、ニュースレター発行などの事業を行うことによって発生した経費、事務局経費は運営委委員会の開催などを含む事業外経費。

2002年度の年会費お振り込みのお願い

【会員の種類】

一般会員、機関会員、賛助会員の3種類があります。会員には研究会やシンポジウムへの参加に際して優遇措置が与えられ、また、ニュースレターが送付されます。

[一般会員] 官公庁、地方自治体職員、森林経営者、森林組合等の関係者、大学、研究所の研究者など、森林GISに関心を持つ個人。

年会費 1,000円 (複数年度分振り込み可)

[機関会員] 自治体や森林組合、林業経営会社、NGOなど、森林GISにユーザーとして関心を持つ団体。

年会費 5,000円

[賛助会員] GISを開発、構築、供給する、あるいは、その技術・能力を有する民間企業。

入会金 5万円、年会費 1口15万円

【会費支払方法】

郵便振込にて下記の口座にお振り込みをお願いいたします。

振替口座番号：00240-3-63184

加入者名：森林GISフォーラム

森林GISフォーラム
地域セミナー in 鹿児島 2002のお知らせ
テーマ 「森林GISの地域レベルへの利用と普及」

- 1.日時 平成14年11月5日(火)10:00~17:00
2.場所 鹿児島県市町村自治会館 4階401号室(鹿児島県庁前)
鹿児島市鴨池新町7-4 Tel 099-206-1010
西鹿児島駅からバスで20分、車で10分

1.セミナー内容

—— 午前：森林GISのデモンストレーション ——

10:00~12:00 賛助会員のGIS展示

アジア航測(株)、(株)キャディックス、(株)パスコ、国土地図(株)、
国土防災技術(株)、(株)システムティーアンドエス、パシフィックコンサルタンツ(株)

—— 午後：講演 ——

13:00~13:10 開会のご挨拶 田中和博(森林GISフォーラム会長)

13:10~13:50 鹿児島県における森林GISにおける取り組みについて

鹿児島県林務水産部 林務水産課 田中良生・林業振興課 久保慎也
パシフィックコンサルタンツ(株) 情報技術部 鈴木 仁

13:50~14:30 福岡県浮羽森林組合の森林管理

福岡県浮羽森林組合指導課長 坂本勝司
マイクロシステム(株) 松本純一郎

14:30~14:50 休憩

14:50~15:30 山地災害および環境へのGIS利用

パスコ(株)九州営業本部 蒲恒太郎・宮川学

15:30~16:20 総合討論 司会 松村直人(森林GISフォーラム事務局長)

16:20~16:30 閉会のご挨拶 西川匡英(鹿児島大学)

4. 連絡先 鹿児島県庁林業振興課 原 幸敏 Tel 099(286)3371
鹿児島大学農学部 西川匡英 Tel 099(285)8573

5. 参加費 無料

6. 参加申し込み(当日参加も可能ですが、事前にメール、fax等でご連絡いただければ幸いです。)
森林GISフォーラム事務局

森林GISフォーラム
ニュースレター Vol. 22
発行日 2002年8月31日
編集人 松村直人
発行人 梅沢光一

森林GISフォーラム事務局<移転しました!!>
〒514-8507 三重県津市上浜町1515
三重大学生物資源学部緑環境計画学研内
TEL:059(231)9507 FAX:059(231)9517

ホームページ <http://fgisf.ac.affrc.go.jp/ForGIS.html>